

1 単元名 地域に笑顔を～北陽を愛する人を増やそう～

2 小単元の学習活動の流れ ※年間の単元構想は別紙参照

「北陽地域のためにできることを提案し、実現しよう」(全20時間)

(1) 小単元目標

○北陽地域の活動に体験的に取り組んだことを活かして、地域の人を笑顔にするために考えられる内容を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性)

○他地域の事例などの情報を収集し、整理・分析しながら取組への理解を深め、プレゼンテーションに向けて効果的に資料を活用し、表現する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力)

○地域の活性化のためには、人が地域を守ろうとする意志だけでなく、あらゆる観点から物事を考え、課題解決していく必要があることを知る。(知識及び技能)

(2) 小単元の学習の流れ

	子どもの問題意識・学習活動	○教師の手立て ☆評価規準
1 2	<p>北陽地域のために自分たちにできることを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科単元「町の幸福論」にて、他地域の活性化への取組について知る。 <p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと他にも、地域の特徴に合わせた事例があるはず ・他地域の取組を参考に、北陽地域への取組を考えられないだろうか ・情報収集して、どのような取組があるのか知りたい。(書籍・インターネット・インタビューなど) 	<p style="text-align: center;">本単元に臨む子どもたちの姿</p> <p>前単元までに、子どもたちは北陽地域のことをもっと知りたいという思いをもち、インタビューやアンケート調査を行い、北陽地域に受け継がれた「もの・こと・ひと」について知った。特に、「ひとの思い」がもの・ことに深く関わっていることを知り、もっと地域の方と関わり、思いを知ることが必要だと感じた。そして、地域の活動に参加し、地域の方と同じ時間を共有する中で“もっと自分たちの力で地域の方を笑顔にできることはないか”と考えるようになった。</p> <p>○子どもたちの手で実現することができる取組に絞り、現実的に考えられるようにする。</p> <p>☆北陽地域の実態に関連付けて、情報収集している。</p>

3 4	<p>他地域の取組について考えを深めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域の取組から、わかったことや考えたことをまとめる。 グループで発表し合い、取組に対する疑問点や改善点について話し合う。 	<p>○他地域の事例を通して、主体性や継続性の大切さ、共通する点を確認する。</p> <p>○客観的に捉えるために、グループ発表を行い、それぞれの取組に対する疑問点や改善点について挙げるようにする。</p> <p>☆取組に対する課題に気づき、課題解決のための改善策を考えることができる。</p>
5	<p>北陽地域のためにどんな取組ができるか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 北陽地域のよさや課題を確認する。 他地域の取組を参考に、北陽地域での取組を考える。 	<p>○取組の内容は、子どもたちの手で実現できるように絞る。</p> <p>☆北陽地域のよさや課題に沿って、取組を考えることができる。</p>
6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	<p>北陽地域のためにできることを提案し、実現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 北陽地域のよさや課題をもとに、取り組む内容を決める。 プレゼンテーションのために必要な情報や資料を取捨選択し、発表の準備や練習をする。 クラスでプレ発表会を行う。 取組に対する疑問点や改善点について話し合う。(本時) 再構成を考え、発表の準備や練習をする。 第1回プレゼンテーションを行う。(川跡コミセン、鳶巣コミセンにて) 両コミセンにて選ばれた1つの取組を実現させる。 第2回プレゼンテーションを行う。(2月14日保護者に向けて) 保護者に選ばれた1つの取組を実現させる。 取組についての振り返りを行う。 活動全体の振り返りを行う。 	<p>○思考ツール(座標軸、ピラミッドなど)を使って、焦点化していく。</p> <p>○情報カードに必要な情報を書き込み、話し合い活動に活用させる。</p> <p>☆発表に必要な情報を取捨選択し、発表内容を工夫して構成している。</p> <p>○プレ発表後、付箋によかった点や改善点を書き、各グループに渡すようにする。</p> <p>○改善点を話し合い、プレゼンに活かせるようにする。</p> <p>○コミセンの職員の方に投票していただき、実現させる取組を決めるようにする。</p> <p>○プレゼンしたグループを中心に、具体的な計画を話し合い、実現に向けて動き出すようにする。</p> <p>○すべてのプレゼンを見ることのできない保護者もいるため、プレゼン資料も当日配付する。保護者に投票用紙を配付し、投票と感想を記入してもらおう。児童に伝え、実現させる取組を決めるようにする。</p> <p>○これからの地域活動、地域の方との関わりについての意欲へと繋げる。</p>

3 本時の学習（第11時）

(1) 本時目標

○グループごとに課題を把握し、課題解決のために改善策を話し合うことで、さまざまな考え方のよさに気づく。
 (思考力・判断力・表現力)

(2) 本時の展開

	予想される子どもの活動と反応	○教師の手立て ☆評価規準
め あ て の 確 認 / 課 題 を つ か む / ふ か め る / ふ り か え る	<p>(前時まで)</p> <p>プレ発表会を行い、「取組について」「発表の仕方について」指摘された課題について、どのように改善していくか話し合う活動をしている。本時は2回目の話し合い活動になる。</p> <p>1. 前時の学習に続き、話し合い活動を行うことを確認する。</p> <p>2. グループごとに話し合う課題について発表する。 ①課題 ②進め方</p> <p>3. それぞれの課題について話し合う。 ・役割分担（司会・記録・発表者など）を決める。 ・課題について改善策を考える。 ・まなボードを活用する。</p> <p>4. 話し合ったことを発表する。 ・まなボードを黒板に貼り、発表者が話す。 ・1グループ1分程度</p> <p>5. 活動の振り返りをする。 ・ワークシートに感想を書く。</p>	<p>○教師の手立て ☆評価規準</p> <p>○前時の振り返りの時間に、本時の話し合いの計画を相談しておく。</p> <p>○全体での本時の学習課題、学習のゴール、学習の進め方を確認する。</p> <p>○司会・記録・発表者以外は、「話す人」として全員に役割を与え、意識的ながら話し合いに参加できるようにする。</p> <p>○思考ツールを使って、話し合った内容が視覚化できるようにする。</p> <p>○発表にまなボードを使うことを伝え、発表に活用させる。</p> <p>☆課題解決に沿って話し合い、さまざまな考え方のよさに気づく。</p>

【授業を見る視点】

○話し合い活動で思考ツールを児童に選ばせたことは、児童の思考や話し合いを深める上で有効であったか。